

小松川・平井防災訓練



七月三日(日)第二十九回小松川・平井地区総合防災訓練が大島・小松川公園自由の広場で行われました。

江戸川区内三団合同水防訓練

五月二十七日 荒川河川敷平井運動公園に於いて江戸川、小岩、葛西消防団が参加して二十三年度江戸川区内三団水防訓練が行われました。江戸川消防団では、第一分団・第二分団・第三分団・第十分団で、かまつき工法と流し家屋救助訓練を真剣に取り組みました。



この訓練は災害に備え、住民同士の連携を深めると共に地域全体の防災意識を高めるために毎年行われています。会場ではいざと言う時に的確な行動が取れるよう消火訓練・バケツリレー・応急救護等様々な訓練がおこなわれ東日本大震災直後ということもあり、多くの住民の方が参加され真剣に取り組んでいました。

地域の絆!

消防団員募集

東日本大震災では被災地を中心に堤防の門戸閉めや、住民の避難誘導などで多くの消防団員が亡くなりました。東京二十三区の消防団員は、通常、広報活動や、住民と協力しての消火・救護活動が基本となります。江戸川消防団では、全団員上級救命技能の講習を受けており、消防ポンプや資器材(チェンソー等)が配備されている、災害の時にはそれらを活用できる訓練をしております。災害の時には、地域住民のリーダーとなり、地域を守る団体です。



東京都消防協会

江戸川消防団では、平井地域と西瑞江地域の消防団員が不足しております。一人でも多くの団員やOBが地域にいらすと安心につながります。是非、協力をお願いします。

実践型放水訓練

八月二十八日(日)都営江戸川二丁目アパルト解体現場において、消防放水訓練が行われました。今回の訓練は、新入団員や放水訓練の機会が少ない団員を中心に行われ、可搬ポンプからの筒先ノズル圧力は通常より高水圧での放水を体感したり、放水を止めることなく筒先を交代する動作や放水時



東京都消防協会

筒先を放してしまったり、時の筒先の危険状況など普段体験することのない訓練を各団員真剣に行いました。今後の現場活動に活かしたい訓練でした。

分団紹介



東京都消防協会

今でも屋号で呼び合う町、一之江。「どこの誰があーだこうだ」とすぐ話にのぼる。先輩、後輩四十、五十過ぎてもいまだ健在。休もうものなら「どうして出られない、何かあるのか?」とどうにも他人行儀になれない。特に火災予防運動の広報では一之江町、一之江一〜八丁目、西瑞江四丁目、の住民の方々に火の用心の声掛けと共に、心の安心を一番に考え、困っている人に対して、見えて見ぬふりをしない昔ながらの近所付き合いの良さが根強く残っている第八分団です。

平成二十二年年度受賞

- 叙勲受賞者
瑞宝双光章
前江戸川消防団長
武松 成太郎
- 消防庁長官表彰
永年勤続功労章
第二分団
分団長
一木 正明

編集後記

今年は大震災の影響で各地の行事が自粛、縮小されました。江戸川区においては江戸川区花火大会を中止としました。江戸川消防団でも節電により、夜間の訓練を伴うポンプ操作の大会が中止されました。今回の広報紙は、地震による安全対策を特集しております。皆さん自宅の安全対策から考えてみて下さい。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 東京都消防褒章
団本部 | 分団長
渡邊 登 |
| 第一分団 | 分団長
喜田 末子 |
| 日本消防協会表彰
第八分団 | 分団長
金子 賢治 |
| 日本消防協会表彰
団本部 | 部長
勤続章 |
| 第十分団 | 分団長
勝田 富浩 |
| 第五分団 | 分団長
阿部 喜美男 |
| 東京都消防協会表彰
第二分団 | 副分団長
石井 修一 |
| 第七分団 | 副分団長
石原 修一 |
| 区政功労賞 | 副分団長
齋藤 敏男 |
| 団本部副団長 | 加納 邦夫 |
| 第三分団長 | 神宮司 忠 |
| 第一分団長 | 喜田 末子 |
| 第三分団部長 | 小久保繁夫 |
| 第六分団班長 | 保科 政和 |